

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770901573		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	医療法人仁寿会 グループホーム円珠荘(Bユニット)		
所在地	大阪府高槻市北柳川町2番6号		
自己評価作成日	令和5年10月3日	評価結果市町村受理日	令和5年12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2770901573-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ぱ・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和5年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた自宅から、当施設で暮らすことになっても家族的な雰囲気を感じながらその人がその人らしい暮らしが続けられるように支援していきたいと思っています。お一人お一人の想いに寄り添いながら心のこもったケアを提供しています。また、医師の往診や訪問歯科、提供医療機関と連携しながらご入居者様の健康管理の充実に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念や運営方針は事業所内に掲示して、いつでも見られるようにしています。管理者と職員は常に利用者様の立場に立ったサービスの提供に努め家庭的な環境のもとで認知症の進行の防止と緩和緩和を測ります。出来る限り自立した日常生活が送れるように支援していきます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	以前は近所の喫茶店や街角喫茶に通ったり、お祭りや催し物のたびに地域の方々がご来訪くださったりがありましたが、今まで行っていた行事や面会なども新型コロナウイルスのまん延防止のために難しくなっております。現在は近所のお散歩の際に畑の手入れをされているご近所さんなどと挨拶や少しお話をする程度となっております。今後の感染状況を見ながらですが、徐々に利用者様がご希望の外食や近所へのお買い物、街角茶店でお茶など地域との交流を積極的に取り入れたいと思っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域貢献の機会が持てませんでしたが、運営推進会議を通して、当事業所・民生委員・地域包括の方々の状況をお互いに情報交換で知ると共に、何か出来ることがあればお声掛けさせてもらっています。感染症が治まれば、街角カフェの参加や福祉体験等の受け入れを行い地域の方々との交流を増やしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、しばらくは書面で利用者の状況や写真などを活動報告とさせていただき、委員から意見やアドバイスをいただいていた。感染対策や運営状況等を報告し、問題点について意見や助言を得て、サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉支援課や福祉指導課担当の方には、日ごろから、いろいろとご相談させていただいたり、情報交換を行ったりさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束の排除に関する理念と方針」を定期的な勉強会により周知し、理解を深め、それぞれの利用者様の状態の把握に努め、安心安全に暮らしていただけるように努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会で理解を深めるとともに身体的虐待・精神的虐待には特に日ごろから意識して職員同士がお互いに指摘し、注意できる環境作りを目指しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や制度を利用したことのある職員、今後、使用を考えている職員に実際の状況や経験談を参考にみんなで話し合い、学べる機会が持てるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその家族への説明は十分に時間をとり、確認、同意の上で契約を交わしています。更にわからないことはいつでも聞いて下さいと名刺を渡し連絡先をお伝えしています。介護改定の際、必要に応じて電話やお手紙にて報告、確認、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染症のまん延で家族さまと直接に話す機会は減りましたが、リモート面会などに来られた際にお声掛けにて意見や要望を聞かせていただけるように努めています。意見や苦情を伝えられるように契約の際、重要事項説明書に苦情申し立て窓口の説明を行い理解してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を行い、「法人の管理者会議」の報告をし、行事や利用者の介助に関する事等の意見交換を行う。定期的に職員の意見や提案を聞き、施設運営に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者、リーダーが定期的な会議にて職員の状況、職場環境について報告し、職場環境の改善、整備に努めている。 働きやすい職場環境であるように勤務希望や自身の状況を聞くようにしており、資格取得サポートを行い意欲の向上に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の定期研修にて、個々のスキルアップを図ると共に、外部研修についても積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議を定期的に合同で行い、情報交換を行ったり、自然災害や防犯対策、コロナ対策、認知症の症状への対応など意見交換しながらお互いが良いところを取り入れるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず体験をしていただくが、体験前に家族やケアマネ等から情報収集を行い、居宅での生活習慣を把握し、本人からの要望・不安や困りごとを聞き取った情報を職員全員に周知し、安心して過ごせるように。ここが自分の居場所となるような支援を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に本人同様、家族にとっての不安や悩みなど困りごとをゆっくりと聞くようにしている。家族の想いをしっかりと受け止め安心して任せられるように、いつでも相談できる体制を整えて信頼関係が築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネ、主治医等の情報を精査し現在、必要と思われるサービスをお勧めし、支援の方法や今後の方向性を考慮しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員は同じ場所・同じ時間を共有することで、身近な関係性を築き、家庭的で穏やかな時間を共に過ごせるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には月1回、本人の実情を報告すると共に、家族が本人との良好な関係性を保てるように定期的に面会の促しをお願いするなどし、家族と職員が一緒になって暮らしの一部となれるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症のまん延で面会や外出が制限されましたが、その中でも、リモート面会や手紙、電話でお話いただくなど、馴染みの方々との関係性を大切にもらえるように努めてきた。感染症が落ち着けば馴染みの場所へ訪れたり、家族との外出や外泊、外食などを積極的に取り入れていきたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や状況を把握し、利用者同士の関係性を理解し、職員が間に入って良好な関係性が保てるように支援に努める。 日々行う家事やレクリエーションなども共に共同生活を送る仲間同士を意識出来る環境づくりを心がけます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状の進行などで施設での生活が困難になった際は、ご家族としっかりと相談しご本人にとってどのような選択があり、どのように暮らしたいかを聞き取って次の支援に繋げ、退所となった後も必要に応じて、家族とも連絡を取り合い相談なども受けるようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の日ごろの会話や表情、行動から想いを探り出来る限り寄り添った支援が出来るように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族やケアマネに生活歴や思い出などの情報収集を行い、本人からは日々の会話の中から聞き取りを行い、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の職員の申し送りにてその日、その時の体調や精神面など状況を知り、把握したうえで、その時々に合わせて対応を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、全職員の情報。医師、看護師から専門的なアドバイスを受けながら職員会議などで話し合い介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送り記録にて生活面・医療面の情報を共有し、ケアの方法を検討し今必要な支援が出来るように努め、介護計画の見直しにも繋げています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の進行や体調の変化により個々の利用者のちょっとした変化を見逃さず、柔軟に対応できるように日々のかかわりの中での、気づきを大切にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症の影響で外部との交流は見合わせており、地域資源を十分に活用出来ていないが、感染状況に合わせて面会はリモートから直接面会に、散歩などは、外気温度を見ながら距離を変えていくなど安全に楽しむことが出来るように配慮に努めている。今後、感染状況を見ながらですが、街角カフェや買い物、花見や外食など、以前のように地域と関りが持てるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医(主治医)としていますが、本人・家族が希望する専門医等の受診は必要に応じて行っています。詳しい状況説明は職員が家族と同行したり、医療連携シートの活用で、情報の共有を図りながら連携を保つように努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の利用者の状況を看護師に報告、相談し、必要な場合はすぐに医療機関を受診、訪問受診を受けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状況を介護サマリー等で情報の提供を行い、医療機関の相談員との連携に努めています。退院時には看護サマリーやリハサマリー等をもらい受け、退院後は安心して施設生活が送れるように配慮に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に施設が出来ること出来ないことを説明し利用者・家族の理解を得ている。病状の進行により、施設での生活が困難になった際は本人・家族と十分に話し合い、かかりつけ医に相談し、希望に添えるよう医療と連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応など(ケアマネ・看護師への連絡・救急搬送の手配)マニュアル化しており、応急手当についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成、消防との連携を図り、年2回の避難訓練を実施。 (非常食・飲料水他)も定期的に確認し災害時は近郊の職員も協力体制を準備している。本年度はコロナウイルス感染症の影響もあり、地域交流などは見合わせています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する契約を交わし、日々の家族的な関りの中でも自尊心を傷つけない言葉かけやケアを心がけています。年間研修の中にも組み入れてプライバシーの保護や声掛けについて振り返りを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の想いが伝えやすい環境作りと本人の訴えを傾聴しています。 なかなか言葉では上手く伝えられない方も生活歴や日々の行動・発言から見出せる想いを大切にし、難しい自己決定は困難ですが、寄り添う支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や心身状況、気分に合わせて可能な限りその人に合わせた生活を過ごしていただけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナウイルス感染症の影響であまり遠くには出かけられませんが、定期的に散髪を行い入浴用意の時にご自身で好みの洋服を選んでもらうなど、出来る限り寄り添った支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症を防ぐため、利用者と職員と一緒に調理することはほぼ無く、昼・夕は厨房での調理後盛り付けされた状態でワゴンで運ばれてきます。朝のパンは利用者を選んでもらい提供している。おやつについては、たこ焼きの具材を混ぜたりひっくり返すなど、直接触れないでも良いものは一緒に楽しんでもらっており、後かたづけも職員と一緒にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を毎日記録し、それぞれに合わせた食事形態で栄養管理・健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせた口腔ケアを実施しています。毎食後の歯磨きの声掛け介助を行い、義歯は一晚、洗浄剤につけています。月2回の訪問歯科にて必要時の治療や義歯の調整等の行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者の排泄パターンの把握に努め、定期的なトイレ誘導だけでなく、利用者の行動の変化を見逃さないように注意し、出来る限り失敗せずにトイレで排泄できるようトイレの声掛け促しを行い、自立に向けた支援に努めております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用し日々、利用者の排便パターンの把握に努め、食事(牛乳、ヨーグルト、果物等)や水分摂・運動にて便意をもたせ、必要に応じて、医師・看護師の指示のもと、便秘薬の調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし、個々の利用者の体調や希望等に合わせて順番などを調整している。乾燥肌の方が多くおられるため、入浴剤なども使用し、入浴後は保湿剤等を塗布している。可能な限りの同性介助で心身ともにくつろぎの時間となるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所でのプログラムはありますが、個々の体調や睡眠時間などを考慮し、声掛けにてご本人の意思により休息や睡眠が取れるようにしております。 早起きが苦手な方は、時間をずらすなどの配慮をしております。 定期的にシーツ等を交換するなど、清潔保持に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クスリの説明証をファイルしており、いつでも確認できるようにしています。 「入居者様 服薬管理表」なども使用し一目で既往歴・服薬・薬剤効果が変わるようにし、薬の変更や追加など「申し送りノート」に記載し、周知するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を把握し、ご本人の希望に添って日々の生活の中での役割や活動を楽しんでいただけるように努めています。 コロナによる外出制限前はご近所にお買い物や季節を感じられる場所に車で出かけたり喫茶店でお茶を楽しんでいただいていた。制限下では施設内でのイベントなどで気分転換出来る場所づくりに努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は近所の喫茶店でお茶を楽しんだりスーパーで買い物やご家族との外出など、ご本人の希望に添って外出支援に努めていました。中高生の職業体験なども受け入れ地域との交流にも努めていました。現状は利用者の体調に合わせて近所の散歩や施設内でのイベントで楽しんでもらっており、感染症の状況により面会や外出の制限を緩和できるよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が大多数の為、紛失等のトラブルを避けるため、基本的にはご家族や後見人の方に金銭を管理していただき、お小遣いとして職員が預かる形にさせていただいています。買い物の際は現在は外出制限がありますので、代行で買い物させていただいています。洋服などを購入の際はタブレットでご本人に確認してもらい代理で購入のお手伝いをさせていただくこともあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人から電話があった際は、ご本人に代わりお話しさせていただいています。ご家族への連絡を希望された際も職員が電話をかけてからご本人にお話しいただくようにしております。年に1回の年賀状は皆様にどんな形でも書いていただくようにしており、それ以外の手紙の返事を希望された際は代筆なども行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度・換気湿度など十分に配慮し明るく清潔感のある開放的な空間づくりに努めています。テレビや音楽も不快のない適度な音量になるよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的なプログラムはありますが全室、個室ですので、一人になりたいときはお部屋で過ごされ、気の合った方と誘い合っ て、お部屋と一緒にテレビを見たりおしゃべりするなど、思い 思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は狭く限られています、自宅での馴染みの品などを持参していただいています。写真やソープフラワー等を飾られている方もおられます。 現在はコロナウイルス感染症防止対策としまして、ご家族にお部屋に上がっていただくことができませんので、パンフレット等で説明させていただき、ご本人と相談しながら居心地よく過ごせるように工夫させていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	個々の性格や残存能力を把握し、その方に合わせて洗濯量みや掃除など職員の見守りのもと安全な環境下で日常生活を送ってもらっています。		